

ユニバーサルデザイン通信

令和3年3月19日発行

Vol. 7

ユニバーサルデザイン(UD : Universal (= 普遍的な、万能の) Design (= 設計))とは

年齢や性別、国籍、障害の有無に関わらず、誰もが利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。

市では、市職員が日常業務にユニバーサルデザインを取り入れていくガイドライン(相模原市ユニバーサルデザイン基本指針)を定めています。

ガイドラインには、自分とは違う立場の人の気持ちに気づき、尊重する姿勢や考え方に基づいた「心のバリアフリーの推進」も含まれています。

？ バリアフリーとの違いとは？

障害のある人等を前提に考えて、その人にとってのバリア(障害)を廃除しようとする考え方

ユニバーサルデザインでは、すべての人が対象

SDGs(持続可能な開発目標)との関係とは

SDGsでは、年齢や性別、障害、民族宗教などによる差別や不平等をなくし、「誰一人取り残さない」ことが目標に掲げられています。

世界では、多くの国や企業がSDGs達成のために、「ユニバーサルデザインの考え方」をもとに開発する動きが広がっています。

SDGsを楽しく学ぶメディア

SDGsを難しい言葉を使わずに、身近な事例から、分かりやすく楽しく学ぶサイトです。

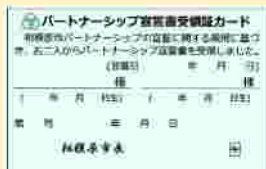
<https://sdgs.city.sagamihara.kanagawa.jp/about-this-site/>



ユニバーサルデザインの取組事例

▶ 相模原市パートナーシップ宣誓制度の開始 (人権・男女共同参画課)

性的少数者の方の自分らしい生き方を後押しするとともに、性の多様性に関する社会的な理解の促進等を図るため、令和2年4月から制度を開始しました。



ユニバーサルデザインの視点

- すべてのひとにやさしい情報・サービスを提供する
 - 誰もが行政サービスを利用しやすい環境整備の推進
- すべてのひとにやさしいまちづくりを進める - 心のバリアフリーの推進

▶ 障害のある職員が活躍しやすい職場の設置 (職員課、教育総務室)

障害のある職員同士が共に働き、活躍しやすい職場環境をつくるため、「事務サポートセンター クローバー」を設置しました。社会福祉補助員のサポートを受けながら、封入封緘作業等を担っています。



ユニバーサルデザインの視点

- すべての職員がユニバーサルデザインの考え方を理解する
 - 学ぶ機会の充実
- すべてのひとにやさしいまちづくりを進める - 心のバリアフリーの推進

▶ 外国人市民も暮らしやすい環境づくり (国際課)

市民が異なる文化や習慣を尊重し合えるよう、相互理解の促進を図るとともに、外国人市民も安心して暮らせるよう、多言語・やさしい日本語による情報発信を進めています。



ユニバーサルデザインの視点

- すべてのひとにやさしい情報・サービスを提供する
 - 受け手に配慮した案内・サインの推進
 - 誰もが行政サービスを利用しやすい環境整備の推進

▶ 認知症の人の立場に立った施策の推進 ~「徘徊」表現の見直し~ (地域包括ケア推進課)

「認知症になると何も分からなくなる」等の誤解や偏見を防止するため、「徘徊」という表現を、必要に応じて「見守り」や「ひとり歩き」などの、認知症の人の立場に立った適切な表現に見直します。



ユニバーサルデザインの視点

- すべてのひとにやさしい情報・サービスを提供する
 - 誰もが行政サービスを利用しやすい環境整備の推進
- すべてのひとにやさしいまちづくりを進める - 心のバリアフリーの推進



ユニバーサルデザインの視点 では、相模原市ユニバーサルデザイン基本指針における基本方針・取組の方向等から引用しています。

ユニバーサルデザインの取組事例

▶ バリアフリーに配慮した相模原スポーツ・レクリエーションパークの開園（公園課）

スポーツ・レクリエーションパークの遊具広場には、子どもから大人、障害のある人など、さまざまな人が一緒に遊べる遊具や健康遊具を多数設置しています。

ユニバーサルデザインの視点

- すべてのひとにやさしいまちづくりを進める
 - 様々な利用者の立場に配慮した公共施設の整備の推進
 - 市外から訪れるひとからも「やさしい」と感じてもらえるようなまちづくりの推進

段差のない園路とフラットなゴムチップ補装



スロープ付きの複合遊具



車椅子のまま利用できるテーブル型の砂場



大人も子どもも利用できる足つぼ歩道



▶ 聴覚に障害のある職員とのコミュニケーション促進に向けた取組（高齢・障害者福祉課）

高齢・障害者福祉課では、聴覚に障害のある職員が、朝礼時に、手話の習得に向けたワンポイント講座を開催しています。また、課内の職員は、各自の座席に「指文字表」を掲示するなど自己研鑽に励み、課内のコミュニケーション促進に取り組んでいます。

ユニバーサルデザインの視点

- すべての職員がユニバーサルデザインの考え方を理解する - 学ぶ機会の充実
- すべてのひとにやさしいまちづくりを進める - 心のバリアフリーの推進

毎日の朝礼での手話講座



手話等による打合せ



手話を習得するためのツール



聴覚に障害のある職員による庁内研修



指文字表や課内で作成した動画も活用しています。

▶ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組（オリンピック・パラリンピック推進課）

市内小・中学校等におけるパラリンピック教育の実施のほか、職員がユニバーサルマナーを学ぶ研修の受講、国際大会への参加に合わせ本市を訪れた選手等と市民との交流、外国人観光客とのコミュニケーションを図るツールの作成などに取り組んでいます。

ユニバーサルデザインの視点

- すべてのひとにユニバーサルデザインの考え方を広める - 学校教育における取組
- すべての職員がユニバーサルデザインの考え方を理解する - 学ぶ機会の充実
- すべてのひとにやさしいまちづくりを進める - 訪れる人の視点
- すべてのひとにやさしい情報・サービスを提供する - 受け手に配慮した案内、サイン

市内小・中学校等におけるパラリンピック教育の実施



ユニバーサルマナー検定3級の認定証



テストキャンプ時の選手と市民との交流



飲食店等で使用できる5か国語対応の指差し会話シート



心のバリアフリーとは

すべてのひとにやさしいまちづくりを進めるうえでは、公共施設や公共交通機関などの「ハード面」と、施設利用時の職員の対応やわかりやすい情報提供資料などの「ソフト面」を一体的に取り組むことが大切です。

さらに、この「ハード面」「ソフト面」に加えて、支援を必要とする方々への理解を深め、自然に支え合うことができる、「心のバリアフリー」を推進することにより、共生社会が実現されます。

職員一人一人が、自分と違う立場の人の気持ちに気づき、尊重する姿勢をもって、市民に接することができるよう、「心のバリアフリー」を推進します。

